

公民的分野 指導計画表

※公民的分野の教科書での時数 96 時間、うち学校の授業以外の場において行うことが考えられる教材・学習活動 21.2 時間

章	学習内容	配当授業時数	学習のねらい	学校の授業以外場において行うことが考えられる教材・学習活動
導入	なぜ「公民」を学ぶのか？	1	<ul style="list-style-type: none"> ●過去と未来の接点、家族から国際社会へと続く社会の中心に、自分＝私が存在するということを読みとらせる。 ●「公民」という言葉の概念について理解を深め、学習への意欲を高めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●前見返し、後見返し、目次などを見て、公民的分野の学習の概要を把握するとともに、興味・関心をもったものをノート等へ書き出す。 ●[なぜ「公民」を学ぶのか？]を読み、「公民」の意味について考えたことをノート等に論述する。 <p>【1時間】</p>
	人生モノサシ	1	<ul style="list-style-type: none"> ●人生における各時代別の自分の立ち位置から、多面的・多角的に人生を見直し、考えさせる。 ●自分の人生をシミュレーションすることで、その背景にある社会の動きと関連させ、公民分野で学ぶ内容を理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●p.4の図「人生モノサシ」と文章を読んで、自分の人生を考える上で参考になりそうなことをノート等へ書き出す。 ●p.5「自分の過去・現在・未来シート」に取り組み、自分の考えや理由をまとめる。 <p>【1時間】</p>
第1章 私たちの生活と現代社会	発見！ 現代社会の特色	1	<ul style="list-style-type: none"> ●現代社会を四つの特色から整理して時代を概観させる。 ●日本社会は長い伝統の上に変化が生じていることを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●章扉(p.9)の語句や写真を通して本章で学習することを確認する。 ●p.10-11の13枚の写真をもとに、現代社会にどのような特色があるかを考え、まとめる。 <p>【1時間】</p>
	第1節 私から見える現代の日本社会	(5)	<ul style="list-style-type: none"> ●現代日本の特色として少子高齢化、情報化、グローバル化などがみられることを理解させるとともに、それらが政治、経済、国際関係に影響をあたえていることに気づかせる。 	
	1 世界とかかわる私	1	<ul style="list-style-type: none"> ●グローバル化により、国際分業と国際競争が加速していることを理解させる。 ●自国意識をしっかりと持ちながら、他国と良好な関係を築けるグローバル人材の育成が求められていることに気づかせる。 	
	2 情報から現代を知る私	1	<ul style="list-style-type: none"> ●情報社会の到来により生活が便利になる一方で、さまざまな課題が生じていることを考えさせる。 ●情報社会の中で、情報を活用する力や、情報モラルを身に付けることなどの大切さを理解させる。 	
	3 私の家庭と少子高齢化	1	<ul style="list-style-type: none"> ●少子化の進行と平均寿命の伸長による人口構造の変化に気づき、わが国の少子高齢社会の特徴について理解させる。 ●急速に進むわが国の少子高齢社会の課題を調べ、特に「育児」と「介護」等への対応について考えさせる。 	
	4 家族と郷土	1	<ul style="list-style-type: none"> ●家族の役割と重要性について考えることから、家族に対する関心を高めさせる。 ●郷土について考え、郷土愛や郷土の発展に貢献しようとする意欲を高める。 	
	【やってみよう】 家族が生きてきた時代を調べよう	1	<ul style="list-style-type: none"> ●高度経済成長期以降、人々の暮らしや社会の動きが急速に発展していったことを、さまざまな視点から調べさせる。 ●家族の生活史を調べることをとおして、その背景にある社会の動きとの関連を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●p.22-23の文章を読み、写真や図も見て、「家族にインタビュー」に取り組み、時代の変化や家族の生活史についてまとめる。 <p>【1時間】</p>

章	学習内容	配当授業時数	学習のねらい	学校の授業以外場において行うことが考えられる教材・学習活動
第1章 私たちの生活と現代社会	第2節 現代社会の文化と私たちの生活	(5)	●現代社会における文化の意義や影響を理解させるとともに、わが国の伝統と文化に関心をもたせ、文化の継承と創造の意義に気づかせる。	
	1 文化の意義と影響	1	●現代社会における文化の意義や影響について理解させる。 ●私たちの生活の中には、伝統的な考え方や信仰、習慣などの影響がみられることに触れ、わが国の伝統と文化に関心をもたせる。	
	2 日本の伝統文化 【理解を深めよう】 日本の伝統文化	1	●伝統文化の意義や影響について理解させる。 ●日本の伝統文化の特徴について理解させ、これからの伝統文化に関心をもたせる。	
	3 科学技術の発達と私たちの生活	1	●科学技術の発達によって豊かな生活を享受できるようになったことを理解させる。 ●技術革新による恩恵と課題を見つけ出し、その対応について考えさせる。	
	4 文化の継承と創造	1	●わが国の伝統文化を継承し、そして新しい文化の創造に努めることが、私たちの生活をより豊かにすることを理解させる。 ●自国の伝統と文化を大切にすることは、他国の伝統と文化を認め、尊重することにつながることを気づかせる。	
	【やってみよう】 身近な祭りを調べてみよう	1	●身近な地域の歴史を調べる活動を通して、地域への関心を高め、地域の具体的な事柄との関わりのなかでわが国の歴史を理解する。	
	第3節 現代社会をとらえる見方や考え方	(2)	●社会生活における物事の決定のしかた、きまりの意義について具体的に考えさせる。 ●現代社会をとらえる見方や考え方の基礎として、「対立」と「合意」、「効率」と「公正」などの視点があることを、具体的な社会生活と関連づけて理解させる。	
	1 対立から合意へ	1	●現代社会をとらえる見方や考え方の基礎として、「対立」と「合意」、「効率」と「公正」の視点があることを、教科書の事例をとおして理解させる。 ●身近な学校生活における問題を取り上げ、「対立」と「合意」、「効率」と「公正」の視点から考えさせる。	
	2 きまりの意義	1	●なぜ「きまり」がつくられるのかということや、「きまり」を守ることの意義について、事例をとおして考える。 ●きまりを守ることの意義について「権利」「義務」「責任」との関係から理解し、きまりを積極的に守ろうとする意欲を高める。	

章	学習内容	担当授業 時数	学習のねらい	学校の授業以外場において行うことが考えられる教材・学習活動
第2章 私たちの生活と政治 — 日本国憲法の基本原則 —	法の入り口	1	<ul style="list-style-type: none"> ●民主主義の基礎に人権の尊重という考え方があり、それが法によって保障されていることに気づく。 ●法やルールについて、なぜ、そのような規定があるのか、その規定を設けた基本的な考え方や意義を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●章扉 (p. 43) の語句や写真を通して本章で学習することを確認する。 ●p. 44-45 [法の入り口] の活動に取り組み、「みんなが納得すると思われるケーキの分け方」とその理由を考え、自分の意見をまとめる。 【1時間】
	第1節 日本国憲法の基本原則	(8)	<ul style="list-style-type: none"> ●日本国憲法が基本的人権の尊重、国民主権及び平和主義を基本原則としていることについての理解を深め、日本国及び日本国民統合の象徴としての天皇の地位と天皇の国事行為について理解させる。 	
	1 法と私たちの生活	1	<ul style="list-style-type: none"> ●わが国は法治国家であり、憲法を頂点として法が構成されていることを理解させる。 ●法が正しく運用されるためには、他者を思いやる心が必要であることを考察させる。 	
	2 大日本帝国憲法と日本国憲法	1	<ul style="list-style-type: none"> ●わが国の政治が憲法に基づいて行われていることの意義について考えさせる。 ●日本国憲法の成立過程を知ると同時に、基本的人権の尊重、国民主権および平和主義を基本的原則としていることについて理解させる。 	
	3 国民主権と天皇	1	<ul style="list-style-type: none"> ●主権が国民にある意義について、議会議民主主義の関係から考えさせる。 ●日本国および日本国民統合の象徴としての天皇の地位と、天皇の国事行為について理解させる。 	
	4 人権の歴史	1	<ul style="list-style-type: none"> ●欧米とわが国の人権の歴史について概観させる。 ●国の伝統と人権は密接にかかわっていることを考察させる。 	
	5 基本的人権の尊重	1	<ul style="list-style-type: none"> ●日本国憲法の定める基本的人権の考え方や内容について、条文を確認しその概略を理解させる。 ●基本的人権の行使にあたっては、公共の福祉による制限があり、社会全体の秩序に配慮しなければならないことについて、具体的な場面をとおして考察させる。 	
	6 平和主義	1	<ul style="list-style-type: none"> ●日本国憲法の平和主義の理念について、その歴史的経緯をふまえて理解させるとともに、自衛隊の役割について理解させる。 ●平和主義が日本の平和を守るだけでなく、世界の平和に貢献する考えであることに気づかせる。 	
	7 平和主義と防衛	1	<ul style="list-style-type: none"> ●わが国は、アメリカ合衆国との間に結んでいる日米安全保障条約を安全保障体制の基本としていることを、条約の内容や役割をとおして理解させる。 ●わが国の安全保障や防衛問題への関心を高めるとともに、自国の問題として主体的に考えていこうとする態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●第5章第1節5項「世界平和の実現にむけて」(p. 186-187) の資料として、まとめて学ぶことも考えられる。 【1時間】
8 憲法改正のしくみ	1	<ul style="list-style-type: none"> ●憲法は他の法律などと異なり、改正にあたって高いハードルが用意されている理由について考えさせる。 ●現在の憲法改正をめぐる動向に目を向け、どのような内容が改正の対象となっているかについて関心をもたせる。 		

章	学習内容	担当授業 時数	学習のねらい	学校の授業以外場において行うことが考えられる教材・学習活動
第2章 私たちの生活と政治 — 日本国憲法の基本原則 —	第2節 基本的人権の尊重	(7)	<ul style="list-style-type: none"> ●人間の尊重についての考え方を、基本的人権を中心に、具体的な活動などを通して意欲的に追究させるとともに、法の意義や法を守る心について理解させる。 ●具体的な事例を通して、日本国憲法に定められている基本的人権の種類やその内容について理解させる。 	
	1 自由権	1	<ul style="list-style-type: none"> ●日本国憲法が保障する自由権の内容を理解させる。 ●精神の自由、身体の自由、経済活動の自由について、具体的な事例をとおして、その意義や実際の社会における保障のあり方をとらえさせる。 	
	2 法の下での平等 【考えよう】 男女の平等と家族の価値	1	<ul style="list-style-type: none"> ●日本国憲法が保障する平等権の趣旨と内容を理解させる。 ●男女の平等や子どもの権利、家族の価値について、資料をもとに多面的・多角的に考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●p. 66-67 [考えよう 男女の平等と家族の価値] に取り組み、男女共同参画社会の課題や家族の価値、家族の協力について、自分の考えや理由をまとめる。 <p>【0.2時間】</p>
	3 ともに生きるために 【理解を深めよう】 「ともに生きる」ためにできること	1	<ul style="list-style-type: none"> ●不合理な差別がどのような場で見られ、それに対しどのような手だてがとられているのかについて理解させる。 ●差別をなくし、人権が十分に保障される社会をつくらうとする意欲を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●授業の事前準備として、p. 69 [考えよう だれもが活躍できる社会へ] に取り組み、だれもが個性や能力を生かして社会に参加できるようなくみついで、自分の考えや理由をまとめる。 <p>【0.2時間】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●p. 70-71 [理解を深めよう 「ともに生きる」ためにできること] を読み、ともに生きるためにできることについて、自分の考えや理由をまとめる。 <p>【0.2時間】</p>
	4 社会権	1	<ul style="list-style-type: none"> ●社会権が保障されるようになった背景をとらえるとともに、日本国憲法の保障する社会権の内容を理解させる。 ●社会権を保障することが、基本的人権を保障し、確実にすることにつながるものであることをとらえさせる。 	
	5 参政権と請求権	1	<ul style="list-style-type: none"> ●参政権が民主主義の中心であることに気づかせるとともに、その権利を尊重しようとする気持ちを高めさせる。 ●参政権や請求権を保障することが、基本的人権を保障し、確実にすることにつながるものであることをとらえさせる。 	
	6 新しい人権	1	<ul style="list-style-type: none"> ●新しい権利のあらましについて知り、その意義と問題点について考えさせる。 ●身近な生活の中から新しい権利にかかわる諸問題について関心を深めさせる。 	
	7 国際社会における人権 【理解を深めよう】 人種差別をなくすために 【理解を深めよう】 世界の人権問題	1	<ul style="list-style-type: none"> ●人権の保障は国内だけでなく全世界的な課題であり、国際的な機関や条約などにより、その拡充が進んでいることを理解させる。 ●国際的な人権問題の解決には多くの問題点があることを知るとともに、解決に向けての心情を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●p. 80 [理解を深めよう 人種差別をなくすために]、p. 81 [理解を深めよう 世界の人権問題] を読み、人種差別をなくすために取り組んだ人々や、世界の人権問題について、自分の考えや理由をまとめる。 <p>【0.2時間】</p>

章	学習内容	担当授業 時数	学習のねらい	学校の授業以外場において行うことが考えられる教材・学習活動
第3章 私たちの生活と政治 — 民主政治と政治参加 —	政治の入り口	1	<ul style="list-style-type: none"> ●人々が社会生活を営む上で、大きな関わりをもつ「政治」の意義を知り、関心を持たせる。 ●設定されたテーマに従って、議論やディベートを行い、「政治」の働きを考えるきっかけとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ●章扉 (p. 83) の語句や写真を通して本章で学習することを確認する。 ●p. 84-85 [政治の入り口] の活動に取り組み、各党の議員の主張についての、自分の考えや理由をまとめる。 【1時間】
	第1節 民主政治のしくみ	(5)	<ul style="list-style-type: none"> ●民主政治のしくみのあらましやマスメディアの影響、考え方について理解させるとともに、主権者として政治に参加する意義について理解させる。 ●新聞記事や統計資料などを活用し、現実の政治の動きを多面的・多角的にとらえさせる。 	
	1 民主主義とは	1	<ul style="list-style-type: none"> ●人々が社会生活を営む上で、大きなかわりをもつ「政治」の意義に関心をもたせる。 ●民主政治の形態である直接民主主義と間接民主主義のしくみと両者の特色について理解させる。 	
	2 政党と政治	1	<ul style="list-style-type: none"> ●国民の意思を政治に反映させるために政党が果たす役割について理解させる。 ●わが国の政党の現状について調べ、多党制・二党制を中心とした政党の長所・短所について考えさせる。 	
	3 選挙のしくみ	1	<ul style="list-style-type: none"> ●選挙の原則と国政選挙のしくみについて理解させる。 ●現在の選挙制度の問題点や今後のあり方について考察させる。 	
	4 政治参加と世論	1	<ul style="list-style-type: none"> ●民主政治を守り発展させるためには、主権者として積極的に政治に参加していくことが大切であることに気づかせ、政治学習への関心を高める。 ●マスメディアを活用する国民として良識ある判断をすることの大切さについて考えさせる。 	
	【やってみよう】 新聞の社説を比べてみよう	1	<ul style="list-style-type: none"> ●新聞などマスメディアの情報を利用するときは、さまざまな角度から批判的に読み取ること（メディアリテラシー）が重要であることを理解させる。 ●正反対の立場からの社説をもとにディベートを行い、社会事象を多面的・多角的にとらえる技能を高めさせる。 	
	第2節 国民の代表機関としての国会	(2)	<ul style="list-style-type: none"> ●国会を中心とするわが国の民主政治のしくみや政党の果たす役割と課題について理解し、議会制民主主義の充実への意欲を高める。 	
	1 三権分立と国会のしくみ	1	<ul style="list-style-type: none"> ●国会のしくみやそのはたらきについて理解させる。 ●二院制のもつ意義や、衆議院、参議院それぞれの機能や特色について考察させる。 	
	2 立法権をもつ国会	1	<ul style="list-style-type: none"> ●国会は法律の制定以外にも多くの仕事をしていることを、憲法の規定に照らして確認させる。 ●衆議院が優越した立場にあることを国民民主権の原則に関係して考えさせる。 	

章	学習内容	担当授業時数	学習のねらい	学校の授業以外場において行うことが考えられる教材・学習活動
第3章 私たちの生活と政治 —民主政治と政治参加—	第3節 行政権をもつ内閣	(2)	●内閣と国会とのかかわりや、内閣と行政機関のしくみやはたらきについて理解し、行政の課題について考えさせる。	
	1 内閣と議院内閣制	1	●行政の最高機関としての内閣のしくみについて理解させる。 ●国会と内閣の関係をつかみ、議院内閣制の意義について考察させる。	
	2 内閣の仕事と行政のはたらき	1	●内閣の仕事と、行政にたずさわる公務員の立場と職務について理解させる。 ●行政がどのような問題をかかえ、それをどのように解決しようとしているのかについて考えさせる。	
	第4節 裁判所と司法権	(4)	●国民の権利を守り、社会の秩序を維持するために、法に基づく公正な裁判の保障があることを理解させる。 ●模擬裁判などの体験的な学習を通して、国民の司法参加の意義について考えさせるとともに、公正に問題を解決しようとする態度を育てる。	
	1 裁判所の役割と司法権の独立	1	●生活上のトラブルや犯罪を公正に裁くため、司法権をもつ裁判所が独立した立場におかれている意義について考察できるようにする。 ●司法の機能が十分に発揮されるには、司法権の独立が前提となっていることを理解させる。	
	2 裁判のしくみ	1	●裁判所のしくみや裁判の概要について知り、国民の権利が保障されていることを理解させる。 ●身近な事件と裁判の種類について関心をもち、新聞などを利用して調べることができる。	●p.107 [やってみよう 裁判を傍聴しよう] に取り組み、裁判所のウェブサイトで自分の関心のある裁判について調べる。 【0.2時間】
	3 司法への参加と人権の保障	1	●裁判に関してさまざまな人権が保障されていることを憲法の条文との関係で調べさせる。 ●裁判員制度の意義と大まかな制度の流れについて理解させる。	●p.109 [考えよう 死刑制度] に取り組み、死刑制度の是非について、自分の考えや理由をまとめる。 【0.2時間】
	【やってみよう】 裁判員になって判決を考えよう	1	●裁判員制度についての知識を深め、裁判員として大切なことを理解させる。 ●国民の司法参加に関心を高め、国民の一人としてどのように司法制度にかかわっていけばよいか、自分なりの意見をもつことができる。	●前時の裁判員制度の学習を基に、p.110-111 [やってみよう 裁判員になって判決を考えよう] に取り組み、事件の概要や証人の証言、検察側、弁護側双方の主張を基に、有罪か無罪か、有罪の場合は量刑についての、自分の考えや理由をまとめる。 【1時間】

章	学習内容	担当授業時数	学習のねらい	学校の授業以外場において行うことが考えられる教材・学習活動
第3章 私たちの生活と政治 —民主政治と政治参加—	第5節 地方自治と住民	(5)	●地方自治の基本的な考え方や地方公共団体の政治のしくみについて理解するとともに、住民の権利や義務に関連させて、地方自治の発展に寄与しようとする住民としての自治意識の基礎を育てる。	
	1 私たちと地方自治	1	●私たちの生活に最も近い行政組織である地方公共団体（地方自治体）の意味と役割を理解させる。 ●地方自治の精神に学び、自分たちの地域を住みやすくするため、何ができるか考えさせる。	
	2 地方公共団体の政治のしくみ	1	●地方公共団体のしくみと役割、また地方財政について理解させる。	
	3 私たちのまちづくり	1	●現在行われている各地域でのさまざまな取り組みをふまえ、活力ある地域をつくるために自分たちにできる活動を考える。 ●これからの時代に求められる地域のあり方と、地域の課題について考える。	
	【やってみよう】 観光資源を探そう	2	●これからの時代に求められる地域のあり方と、そのために解決が求められる課題について考えさせる。	●前時までの地方自治の学習を踏まえて、[やってみよう 観光資源を探そう]に取り組み、[「地域おこし」の例]を参考に、身近な地域の「地域おこし」について調べたり、考えたりして、パンフレットを作成する。 【1時間】

章	学習内容	担当授業 時数	学習のねらい	学校の授業以外場において行うことが考えられる教材・学習活動
第4章 私たちの生活と経済	経済の入り口	1	<ul style="list-style-type: none"> ●今日の経済活動に関する課題について着目して、自ら考えようとする態度を育成する。 ●経済に関するさまざまな事柄や課題について、対立と合意、効率と公正などの見方や考え方と関連付けて考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●章扉（p.121）の語句や写真を通して本章で学習することを確認する。 ●p.122-123 [経済の入り口] の活動に取り組み、A国とB国のどちらの国民になるか、自分の考えや理由をまとめる。 【1時間】
	第1節 消費と経済	(4)	<ul style="list-style-type: none"> ●経済の基本的な概念を理解させる。 ●身近な消費生活を通して、経済活動や産業構造を理解させる。 ●消費者問題と消費者保護のための法・制度を理解させる。 	
	1 経済活動と経済成長	1	<ul style="list-style-type: none"> ●経済の基本的な概念である生産・消費・財・サービスなどを理解させ、「生産・流通・消費を中心とする人間の活動が経済である」ということの意味を理解させる。 ●国の経済規模の指標であるGDPについて理解を深めさせる。 	
	2 経済の発展と産業構造の変化	1	<ul style="list-style-type: none"> ●戦後、日本がめざましい経済発展を遂げたことを経済成長率の推移から理解させる。 ●産業の分類と、それに基づく産業構造の変化について理解させる。 	
	3 消費と家計	1	<ul style="list-style-type: none"> ●家計の所得の種類や支出について理解させる。 ●貯蓄の目的や各国別・世代別の貯蓄について理解を深めさせる。 	
	4 消費者の権利と保護	1	<ul style="list-style-type: none"> ●消費者主権から、消費者問題を理解させる。 ●クーリング・オフの制度など、わが国の消費者保護に対する取り組みを理解させる。 ●持続可能な社会の形成に果たす消費者の役割を理解させる。 	
	第2節 生産と労働	(7)	<ul style="list-style-type: none"> ●流通・生産における企業の役割を理解させる。 ●働くことの意義と権利について理解させる。 	
	1 流通のしくみ	1	<ul style="list-style-type: none"> ●流通のしくみと意義、流通に携わる商業や企業の役割を理解させる。 ●より豊かな生活を消費者へ提供しようとする生産者・企業側の努力により、流通の合理化をはじめとする流通機構が変化してきたようすに気づかせる。 	
	2 企業の種類と役割	1	<ul style="list-style-type: none"> ●企業には公企業と私企業があることに気づかせ、公企業の役割と私企業の代表である株式会社の特色を理解させる。 ●企業の活動がおよぼす社会的影響を確認し、人は労働によって知識や経験を身につけていくことを理解させる。 	
	3 企業の競争	1	<ul style="list-style-type: none"> ●企業が利潤獲得を目的に行う競争や、生産性の向上を図るために行われている活動について理解させる。 ●独占・寡占のもたらす長所・短所を考えたうえで、公正な競争の必要性を確認させる。 	

章	学習内容	配当授業時数	学習のねらい	学校の授業以外場において行うことが考えられる教材・学習活動
第4章 私たちの生活と経済	4 企業の責任と労働者の権利	1	<ul style="list-style-type: none"> ●企業の社会的責任（CSR）について理解し、利潤の追求と共に企業が果たさなくてはならない社会的責任を理解させる。 ●国民の勤労の権利と義務について考え、労働環境を保護する法・制度について理解させる。 	
	【理解を深めよう】 企業の社会貢献 【やってみよう】 企業を訪問してみよう	2	<ul style="list-style-type: none"> ●現代の企業が果たしている社会貢献について理解し、企業が社会で果たすべき役割について考えさせる。 ●企業訪問を通じて、実際に働く現場に触れ、働くとはどういうことなのかを体験させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●授業の事前準備として、p.140[理會を深めよう 企業の社会貢献]を読んでおく。 ●前時までの企業についての学習を踏まえて、p.141 [やってみよう 企業を訪問してみよう]に取り組み、自分の関心のある企業についてウェブサイトや調べ、職場で働く人たちの努力や工夫、職場環境などについて、調べたことをまとめ、それについての自分の考えや理由をまとめる。 <p>【2時間】</p>
	5 生活の格差と働く意義 【考えよう】 人は何のために働くのか	1	<ul style="list-style-type: none"> ●従来の日本の雇用形態をふまえ、近年の労働者をとりまく環境が変化していることを理解させ、これからの雇用政策のあり方について考えさせる。 ●勤労の義務が持つ意味と、自分自身が将来社会に出て働くことの意義と役割を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●p.144-145 [考えよう 人は何のために働くのか]に取り組み、文章を読んで、自分の得意なことを生かすにはどのような職業がいいか、自分の考えや理由をまとめる。 <p>【0.2時間】</p>
	第3節 市場経済と金融	(5)	<ul style="list-style-type: none"> ●社会主義経済と比較しながら、資本主義経済の特徴を理解させる。 ●市場経済における価格変動のしくみ、経済における金融機関の果たしている役割、為替制度について理解させる。 	
	1 市場経済とは	1	<ul style="list-style-type: none"> ●自由主義経済における市場の役割と、市場の自動調節機能、市場経済における価格の変動の果たす役割を理解させる。 ●資本主義経済の特徴を理解させる。また社会主義経済との比較も確認させる。 	
	2 市場経済と価格	1	<ul style="list-style-type: none"> ●市場における需要と供給について知識を深め、需要量や供給量の増減によって市場価格がどのように変化するかを理解させる。 ●公共料金について、その特性を知り、価格決定のしくみを理解させる。 	
	3 金融のはたらき	1	<ul style="list-style-type: none"> ●金融のしくみには、直接金融と間接金融があることを理解し、金融の働きを考えさせる。 ●金融機関の代表である銀行のしくみやはたらきから、金融の役割について理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●p.151[やってみよう 銀行員になって融資してみよう]に取り組み、A～D社への融資についての自分の考えや理由をまとめる。 <p>【0.2時間】</p>
	4 日本銀行のはたらき	1	<ul style="list-style-type: none"> ●中央銀行としての日本銀行の仕事の内容について理解させる。 	
	5 国際金融	1	<ul style="list-style-type: none"> ●私たちの生活が国際的な経済活動に結び付いていることに関心をもたせる。 ●円高・円安が貿易や生活にあたる影響や、経済のグローバル化における為替市場の役割を理解させる。 	

章	学習内容	担当授業時数	学習のねらい	学校の授業以外場において行うことが考えられる教材・学習活動
第4章 私たちの生活と経済	第4節 私たちの生活と財政	(3)	<ul style="list-style-type: none"> ●市場経済における政府の役割を理解し、租税・財政についての理解を深めさせる。 ●国及び地方公共団体の財政赤字や、財政のあり方について理解を深めさせる。 	
	1 政府の仕事	1	<ul style="list-style-type: none"> ●社会資本が、国や地域の経済活動を円滑に進めるために必要な基礎的施設として、直接的・間接的に経済の発展に役立っていることを理解させる。 ●将来世代に引き継ぐためのインフラ整備や、国民を守るため防災・減災に関する政策を進める必要性を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ●p.157 [やってみよう もしも警察がなかったら?] に取り組み、警察がなかったらどうなるか、自分の考えや理由をまとめる。 【0.2時間】
	2 財政と租税	1	<ul style="list-style-type: none"> ●租税の大まかなしくみやその特徴について、統計資料などを有効に活用しながら理解させる。 ●財政赤字の原因について理解した上で、望ましい財政のあり方を考えさせる。 ●税収不足を補うために行われる財政投融资や公債の発行のしくみを理解させる。 	
	3 景気の変動と経済政策	1	<ul style="list-style-type: none"> ●好景気と不景気の状態を理解し、景気の変動（循環）のしくみを理解させる。 ●経済の安定のため、政府が行う財政政策および日本銀行が行う金融政策について理解させる。 	
	第5節 私たちの生活と福祉	(4)	<ul style="list-style-type: none"> ●日本の社会保障制度の課題を財政面と少子高齢化の面から考え、将来のあり方について考えさせる。 ●公害問題をはじめとする環境問題に理解を深め、循環型社会や環境保護への取り組みを理解させる。 	
	1 社会保障のしくみ	1	<ul style="list-style-type: none"> ●日本国憲法第25条の精神に基づく社会保障制度の基本的な内容を理解させる。 ●社会保険、特に健康保険と年金保険のしくみについて理解させる。 	
	2 福祉の充実と課題	1	<ul style="list-style-type: none"> ●少子高齢社会の進行にともなう日本の社会保障制度の課題について理解させ、これからの日本の社会保障制度のあり方を、他国の例を参考にしながら考えさせる。 ●年金制度の財政面での問題を理解させ、これからの年金制度のあり方について考えさせる。 	
	3 環境の保全	1	<ul style="list-style-type: none"> ●高度経済成長期における日本の公害問題を理解し、日本の環境行政の歩みを確認させる。 ●循環型社会のしくみをとおして、環境保護のための三つのRを理解させる。 	
	4 日本経済のこれから	1	<ul style="list-style-type: none"> ●日本経済の成長の鍵となる技術力や日本人らしい商品開発、海外で評価される日本文化について考えさせる。 ●自分たちが日本経済のこれからを担っていくということを自覚させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●持続可能な社会を前提とした「日本経済のこれから」を考える学習活動であるため、終章「テーマを決めてレポートを作成しよう」で探究するテーマの一つとして扱うことも考えられる。 【1時間】

章	学習内容	配当授業 時数	学習のねらい	学校の授業以外場において行うことが考えられる教材・学習活動
第5章 私たちが国際社会の課題	国際社会の入り口	1	<ul style="list-style-type: none"> ●国際社会に対する理解を深めさせ、国際社会における我が国の役割について考察させる。 ●よりよい社会を築いていくために解決しなければならないさまざまな課題について探究し、自らの考えをまとめさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●章扉（p.171）の語句や写真を通して本章で学習することを確認する。 ●p.172-173 [国際社会の入り口]の活動に取り組み、A国の外交官としてB国との間の課題を解決するために、どの課題から取り組むかを考え、自分の考えや理由をまとめる。 【1時間】
	第1節 国家と国際社会	(11)	<ul style="list-style-type: none"> ●国家や国際社会とのかかわりを認識させ、自国への愛情と誇りを涵養するとともに、世界平和の実現に向けた国際的な取り組みについて理解させる。 ●国際的な相互依存関係の深まりのなかで、国際社会における日本の役割や国際貢献のあり方について考えさせる。 	
	1 世界の中の日本人として	1	<ul style="list-style-type: none"> ●日本と国際社会との関係について学び、世界とのつながりの中で私たちが生活していることを実感させる。 ●国際関係が従来の国と国との外交の枠を越えつつあり、多様な担い手が出現していることを理解させる。 	
	2 国家とは何か	1	<ul style="list-style-type: none"> ●国家の成立要素である「主権」、「領域」とは何かを理解させる。 ●日本の領土をめぐる問題について、日本の立場を理解し、粘り強く解決しなければならないことに気づかせる。 	
	【理解を深めよう】 領土を取り戻す、守ると いうこと	1	<ul style="list-style-type: none"> ●日本固有の領土である北方領土や竹島に関して、未解決の問題が残されていることについて理解させる。 ●尖閣諸島をめぐる情勢について、日本の正当な立場を理解させ、領有権の問題が存在していないことを理解させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●前時の「国家とは何か」（p.176-177）の資料として、まとめて学ぶことも考えられる。 【1時間】
	3 国家と私たち	1	<ul style="list-style-type: none"> ●日本では法律によって、「日章旗」が国旗であり、「君が代」が国歌であることを理解させる。 ●日本だけでなく諸外国の国旗および国歌を尊重する態度を育てるようにする。 	
	【理解を深めよう】 北朝鮮による日本人拉 致事件	1	<ul style="list-style-type: none"> ●日本の主権が侵害される事件をもとに、主権の侵害とはどのようなことであるか理解させる。 ●北朝鮮による日本人拉致事件を通して、主権や人権、家族の絆について考察させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●前時の「国家と私たち」（p.180-181）の資料として、まとめて学ぶことも考えられる。 【1時間】
	4 国際連合のはたらき	1	<ul style="list-style-type: none"> ●世界平和の実現には、国際連合をはじめとする国際機構などの役割が大切であることを認識させる。 ●国際的な相互依存関係が深まる中、国際連合総会や安全保障理事会などの主要組織の目的や働きを理解させる。 	
	5 世界平和の実現にむけ て	1	<ul style="list-style-type: none"> ●冷戦後の世界では、民族対立や宗教対立が表面化し、地域紛争が絶えないことを理解させる。 ●日本の安全と防衛、核兵器の脅威など世界平和に関わる問題について考察させる。 	
	6 国際社会での協調	1	<ul style="list-style-type: none"> ●地球規模での努力や国際協力、国際協調などが大切であることを理解させる。 ●国際社会において、国家や国際機構以外の組織が活動していることを理解させる。 	

章	学習内容	配当授業 時数	学習のねらい	学校の授業以外場において行うことが考えられる教材・学習活動
第5章 私たちと国際社会の課題	7 国際社会での日本の役割	1	<ul style="list-style-type: none"> ●日本の国際貢献に対する関心を高め、そのあり方について主体的に考察させる。 ●国際貢献としての政府開発援助（ODA）や青年海外協力隊の派遣などを理解させる。 	
	8 文化と宗教の多様性	1	<ul style="list-style-type: none"> ●国際社会における文化や宗教の多様性について理解させる。 ●国家間の相互の協力や各国国民の相互理解と協力が、世界平和の実現と人類の福祉の増大にとって大切であることに気づかせる。 	
	【理解を深めよう】 東日本大震災—国民の絆、世界の絆	1	<ul style="list-style-type: none"> ●大災害から生命の尊重や安全について考察させる。 ●東日本大震災をもとに、日本と世界の平和と繁栄を図ることの大切さに気づかせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●p. 194-195 の東日本大震災についてのさまざまな人たちの思いについての文章を読み、写真を見て、自分の考えや理由をまとめる。 【1 時間】
	第2節 持続可能な社会をつくるために	(5)	<ul style="list-style-type: none"> ●地球環境、資源・エネルギー、人口・食料問題の現状、要因について理解するとともに、国際社会やわが国の取り組み、課題を理解させる。 ●地球環境、資源・エネルギー、人口・食料問題の解決に関心をもち、社会のあり方や自分の生き方について考えさせる。 	
	1 地球的規模の環境問題 【考えよう】 地球環境問題と日本	1	<ul style="list-style-type: none"> ●地球環境問題について関心を高め、とりわけ地球温暖化防止に向けた国際社会の取り組みや課題について主体的に考えていこうとする態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●p. 198-199 [考えよう 地球環境問題と日本] に取り組み、文章を読んで、日本の地球環境問題への取り組みについて調べ、自分の考えや理由をまとめる。 【0.2 時間】
	2 資源・エネルギー問題	1	<ul style="list-style-type: none"> ●資源・エネルギー問題について関心を高め、主体的に取り組んでいこうとする態度を養う。 ●化石燃料に代わって、再生可能エネルギーなどの開発が行われていることを理解させるとともに、その問題点や課題について考えさせる。 	
	3 人口の急増と食料問題	1	<ul style="list-style-type: none"> ●食料問題の解決に向けた国際社会やわが国の取り組みとその課題を考えさせる。 ●人口問題・食料問題について関心を高め、主体的に取り組んでいこうとする態度を養う。 	
	4 持続可能な社会をめざして 【考えよう】 1964年と2020年 東京オリンピック・パラリンピックの時代	1	<ul style="list-style-type: none"> ●持続可能な社会の形成に向けた国際社会や、わが国の取り組みとその課題を考えさせる。 ●持続可能な社会の形成について関心を高め、主体的に取り組んでいこうとする態度を養う。 	<ul style="list-style-type: none"> ●p. 206-207 [考えよう 1964年と2020年 東京オリンピック・パラリンピックの時代] に取り組み、文章を読んで、図や写真を見て、p. 207 の [考えてみよう] について、自分の考えや理由をまとめる。 【1 時間】
社会科のまとめ	テーマを決めてレポートを作成しよう	5	<ul style="list-style-type: none"> ●社会科のまとめとして、公民分野で学習した成果の活用に加えて、地理的分野、歴史的分野の学習の成果をふまえつつ、設定された課題を探究させ、その解決の方法について自分なりの考えをまとめさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●第4章第5節4項「日本経済のこれから」を、ここで資料として扱うことも考えられる。